

ここが知りたい！  
訴えたい！

牟田口美智子 ⑪

益田 隆一 ⑫

古賀 知文 ⑬

中島 宗昭 ⑭

古賀 泰弘 ⑮

## 都市農村交流事業 地域活性化にどう活かす

問

答

来町者を増やすシステムをつくり、農村活性化を図る



問

「子ども農村交流プロジェクト事業」について問う

①平成26年度から平成28年度までの春日北小学校との交流事業での成果と課題は？

②今後の事業の継続と展望

企画課長

- このプロジェクトは、総務省・文科省・国交省・環境省の4省連携事業である子ども農山漁村交流による地域活性化モデル事業の採択を契機にスタート。
- 生産者と消費者を結びつけて都市住民の安全・安心な暮らしに寄与し、本町の農村農業の活性化を図ることを目的。
- 春日市で開催されたおおきマルシェについては、本町の農産物をツールに大木町や農家のことを知って頂き、大木町を訪れて頂くことになさりたい。
- 子ども夢学校事業については春日市のいろいろな団体

■都市農村交流事業  
地域活性化にどう活かす

■大木町公共施設地球温暖化対策実行計画を通して  
職員を意識レベル向上を望む

■民生委員児童委員の活動に対し、  
行政によるサポートの推進を図れ！

に対して農業農村体験事業のPRを継続的に実施し、求めに応じて受け入れがでさるような体制を整えていきたい。

《提案》

- 体験プログラムの充実
- 貸し布団の一括準備
- 事前打ち合わせを密にする
- ノウハウのまとめ  
(ルールや注意点など)
- 民泊家庭のモチベーションを上げる仕組みづくり
- 簡易宿泊施設の新設と利用
- 大木町の歴史・伝統・文化を学べる機会の設定
- 教育委員会とのタイアップ

問

道の駅の中にある「ママと赤ちゃんの部屋」について問う

- ①利用状況、利用促進のための取り組み状況
- ②町内外へのPR  
《聞き取り調査(子育てママ達20名程度)の内容》
- わかりやすい場所にありこ  
ういう施設のある道の駅は  
少ないのでとてもありがた

■花宗川改修の早期実現を願う  
■新規就農給付金事業活用農業者の  
現況と課題及び対策は？

■町道10号線の進捗状況と  
5号線の現在の状況は？  
■特産物の取り扱いと  
今後の町の考え方を問う

力したい。

《提案》

- 利用者ノート(利用者の声)の設置
- 公共施設での利用者マナーのPR
- こども未来課、福祉課など関係課との連携
- 子育て中の保護者からの意見の活用
- 他にも「大木町地域創業・交流支援センター」の役割と機能について質問しました。

※おおきマルシェについては広報おおき7月号P25に詳しく掲載しています。



「ママと赤ちゃんの部屋」で遊ぶ親子



## 大木町公共施設地球温暖化対策実行計画 を通して職員の意識レベル向上を望む

問

答

大木町が目指すべきビジョンを  
職員一人ひとりが共有し行動していく

問

2030年度まで  
に町の公共施設全体  
で2013年度比40・7%  
の温室効果ガスの削減を目  
指す大木町公共施設地球温  
暖化対策実行計画の進捗状  
況は？次のステージに向け  
て10年後、20年後の大木町  
のあるべき姿をどのように  
描いて考えているのか？

町長

暮らしの無駄を無くし、町  
の自然や資源を生かした持  
続可能な町ぐるみの挑戦を  
さらに進めていくことが10年  
後、20年後、住民が町に誇り  
を持ち、住みやすさを実感で  
きるまちづくりにつながるも  
のと確信をしている。

環境課長

2016年5月13日に閣  
議決定された国の地球温暖  
化対策計画に沿って決定して  
いるもので、国としては建物  
や設備の省エネ化や効率的な  
利用、再生可能エネルギーの  
導入や技術の積み上げ等によ

副町長

り実現可能な数値であり、達  
成しなければならぬ削減  
目標としている。町としても、  
非常に高い野心的な目標だ  
が着実に取り組みを進めてい  
きたいと考えている。

問

実行計画にある職  
員アンケート内容か  
らしても大木町の職員のレ  
ベルが問われる内容であ  
る。まずは目標達成のため  
ハード面の導入をする以前  
に職員の環境意識レベルの  
向上を求めないと町民に対  
し示しがつかないのでは？

問

大木町の木質バイ  
オマスの熱源の活用  
を含めた再生可能エネル  
ギーでの検討も必要と考  
えるが。

副町長

熱として利用するというこ  
とになると、熱需要に合わせ  
た規模の設備投資等も必要に  
なり、燃料の安定供給も必要  
になる。

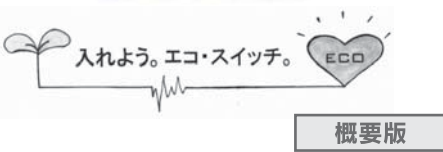
廃菌床の場合、基本的に町  
の中で循環させる考え方で堆  
肥化の研究を進めているが、  
廃菌床を含めバイオマスの熱

利用については近隣間伐材の  
活用など地域間連携による  
仕組みづくりも視野に検討し  
たい。

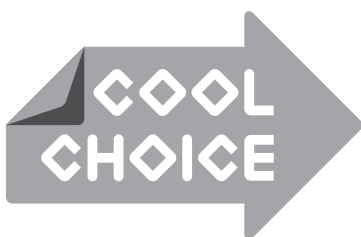
意見

大木町地球温暖化対策実  
行計画はこの内容で、554  
万400円もの税金が投入  
されている。あくまでも税  
金であり、これだけの内容  
をただ記録しておくという  
ことだけではなく、必ず実  
行し、達成するというプロ  
セスが重要かと思う。  
職員のレベルを高めるこ  
とができる絶好の機会であ  
り、ぜひ活かしてもらいた  
い。

### 第3次 大木町公共施設 地球温暖化対策実行計画 【事務事業編】



※大木町ホームページより参照



未来のために、いま選ぼう。

※クールチョイスとは温暖化対策に資する  
あらゆる「賢い選択」を促す国民運動。



問

# 民生委員児童委員の活動に対し、行政によるサポートの推進を図れ!

答

## 地域包括支援センター等の充実により、負担軽減のための環境整備に努める

問

地域コミュニティの高齢化、核家族化等の進行により、民生委員児童委員の必要性が高まる一方で活動内容が多岐にわたり、委員の欠損率が増加傾向にあると聞く。

また、委員の地域における理解や行政のサポートに欠如があるのではないかと町長に伺う。

町長

民生委員児童委員は地域の中心的な担い手として、情熱と使命感、そして、たゆまぬ努力によって役割を果たしてこられた。

今後、委員の必要性が高まる一方で、活動上の負担増が懸念されるので、無理なく活動を続けられるよう、一定の負担軽減を図る環境整備の改善に努めたい。



民生委員制度創設100周年  
シンボルマーク

問

民生委員児童委員協議会「民児協」の今後のあり方について、福祉課長に伺う。

①「民児協」の活動が地域に理解されず、効率的な活動や協力を受け難くなっているか。

福祉課長

今後とも、広報活動の充実、地域内における交流機会の促進、行政区長をはじめとする関係者、関係機関との連携強化について、積極的に調整を行う。

②「民児協」の活動が、多岐にわたり過ぎ、委員にとって負担になっていないか。

福祉課長

社会福祉制度の見直しによつて、対象者を分けず、総合的、包括的な支援を提供する方向に転換が進んでいる。関係者、関係機関との連携、協働が

重要と考えており、委員の活動範囲、活動量等について、十分議論、検討を進めていく。

③委員から、支援対象者との対応にあたり、関係機関とのパイプ役としての立ち位置に苦慮するとの意見を聞くが。

福祉課長

近年、社会福祉諸制度の創設や見直しにより、地域包括



支援センター等のつなぎ先も出ている。それらの行政機関との連携、協働により、委員の活動が、無理なく続けられるよう負担軽減を図り、環境整備に努める。

問

「民児協」の定例会に行政側は、福祉課と社会福祉協議会が出席することであるが、他の関係課もオール大木町として、出席してはどうか。町長に伺う。

町長

全ての町の職員も議会も民生委員の業務過大については、認識していると思う。今後、関係する課が積極的に連携を図り、協議会の皆様と意見交換の場を設けたい。また、今後、民児協の方々の善意だけに頼るのではなく、職務の再点検や処遇の改善などを上部官庁に対し要望活動に取り組みしていきたい。



問

## 花宗川改修の早期実現を願う

答

河川改修事業完成は平成41年度の予定



花宗川左岸堤防

問

花宗川改修の進捗状況は。

建設水道課長

花宗川河川改修事業は昭和43年に着手され、平成41年度完成予定となっております。

平成28年度に旧酒見堰を撤去し、新酒見堰の本格的な供用を開始している。さらに現在下田橋架け替え工事に伴い下田橋付近の河川幅は、約20メートルから約40メートルに拡張される予定である。

問

今後の改修予定と排水対策は。

建設水道課長

引き続き最下流域の大川市での改修が予定されている。また上流地域八女市で、2箇所洪水対策調節池を整備中で平成31年度完成予定である。

町長

新橋川の強制排水ポンプ設置については、花宗川改修期成会を通して要望していく。

問

花宗川左岸町道10号線篠溝上区より観音丸水門までの堤防舗装計画はないのか。

建設水道課長

県として大木町運動公園ふれあい橋より観音丸水門までは実施しているが、未舗装部分について事業計画はないが要望していく。

問

堤防舗装により堤防の強化につながるのと同時にウォーキングやサイクリングコースとしても活用されることから、県には早期実現を強く要望してほしい。

町長

県の方には町の考えを申し上げ、改修計画の具体的なものについて今後協議を進めていく。

問

## 新規就農給付金事業活用農業者の現況と課題及び対策は？

答

サポートチーム等の巡回営農指導でチェックとサポートを実施

問

本町における農業次世代人材事業活用者の推移と人数は。

産業振興課長

平成24年度より28年度までの5年間で、合計32名の新規就農計画を認定し、経営開始型交付金を交付している。

問

受給者決定の審査は厳格になされているのか。

産業振興課長

新規就農認定審査会で就農希望者との面談と打合せ、就農計画の妥当性を厳格に審査し、認定の可否を決定している。

問

今まで本町において受給不適格者及び離農者はいないのか。

産業振興課長

病気や家庭の事情等によりやむなく3名の方が離農。また就農計画通り営農活動ができていないとの判断から他3名の交付金の交付を中止している。

問

新規就農者を育てる為にも就農後の営農指導は的確になされているのか。

産業振興課長

新規就農サポートチームやJA生産部会役員等で巡回営農指導を実施し、営農計画に沿って営農を行っているのかチェック。営農不安解消のためのフォローに努めている。

問

営農向上のために町独自の研修制度の必要性はないか。

産業振興課長

各生産部会の技術担当役員や先進的な研修生受け入れ農家、県農業大学校での研修などで、現段階では機能しているものと考えている。



夫婦で頑張る新規就農者



## 町道10号線の進捗状況と5号線の現在の状況は？

問

答

町道10号線は平成31年度完了予定、町道5号線は31年度以降着手

町道10号線は平成31年度完了予定、町道5号線は31年度以降着手。町道10号線は当初計画から平成27年度は75%、平成28年度は60%の配分にとどまり、事業の進捗状況は当初計画からは遅れている。用地取得においても一部難航しており、物件補償4件、用地関係は8件が交渉中であり、用地（補償費）の取得率約70%。事業完了年度は平成31年度を目標としている。

**問** 町道10号線の自転車歩行者道路整備事業の進捗状況と完了予定を伺う。

建設水道課長

現在の道路交通網の充実に

向けた町道整備の基本的な考え方として、安全安心な歩行空間を確保するため、町道10号線及び5号線の事業実施に取り組んでいる。町道10号線自転車歩行者道路整備事業は、平成23年度から、花宗川から三八松交差点までの1100メートルの区間を国の社会資本整備総合交付金を活用して事業着手し、整備を進めている。しかし国の予算が町の要望額に対して、当初90%台から平成27年度は75%、平成28年度は60%の配分にとどまり、事業の進捗状況は当初計画からは遅れている。用地取得においても一部難航しており、物件補償4件、用地関係は8件が交渉中であり、用地（補償費）の取得率約70%。事業完了年度は平成31年度を目標としている。

建設水道課長

**問** 大溝小学校から大木中学校へ通じる町道5号線の自転車歩行者道路整備事業の計画は。

町道10号線完了後の次期事業として予定している。町道10号線の整備が予定より遅れており、完了予定年度平成31年度以降の事業着手を予定している。

## 特産物の取り扱いと今後の町の考え方を問う

問

答

JA福岡大城と連携してGAP認証取得を支援

**問** 今後のわが町の特産物の振興について考えを伺う。

産業振興課長

イチゴ、キノコ、グリーンアスパラガスについては県内でも屈指の産地を形成している。また「環のめぐみ」や「環のかわり」は有機液肥くるっ肥を

活用し、県の減農薬減化学肥料栽培認定を受けた安全、安心、おいしい地産地消作物としてブランド化を進めている。本町の農業、農産物をどう振興していくかは非常に重要な課題である。水稲にかわり、小麦や大豆、菜種、イチゴ、グ

リンアスパラガスなど農作物の収益性を向上させる上で暗渠排水工事が不可欠であり、早期完了に向け町土地改良区を支援していく。それに加えて、農地の腐植率を高め土壌構造を団粒化することで畑作物の生産性は向上すると言われている。町内にはキノコ廃菌床が潤沢に存在しており、この活用を考えている。

本町農業を振興する上ではGAP認証取得は避けて通れない課題でJA福岡大城と連携して支援していきたい。このほか新規就農者や担い手の確保、育成を初め農業全般の施策を展開していきたい。

